



2050年 まちのビジョン

未来スタイルの ショーケース

～先端技術の未来空間で、見る、感じる、新たな感動体験ができるまち～

ターゲットプレイヤー

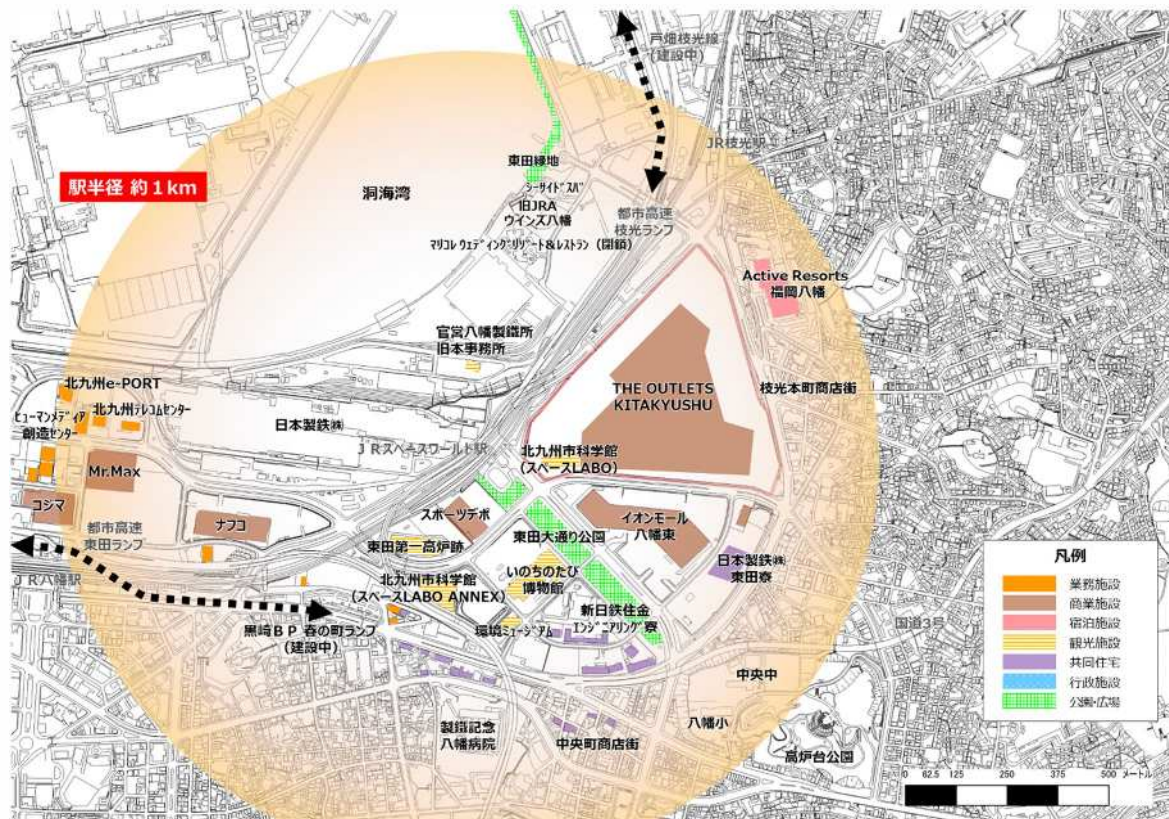


T R Y

- ・ 広域からの来街者
- ・ 実証・実装の場を求める企業
- ・ 新しいトレンドに惹かれる人々

パフォーマンス・活動

- ・ 「先端技術×観光」が生み出す新たな感動体験
- ・ 未来を切り開く新規ビジネスの創造にチャレンジ
- ・ 最先端トレンドをキャッチし、次世代スタイルを実践



まちづくりの方針と取組

01. 広場・公園を核としたシンボリック空間

- ・ 居心地がよく、歩きたくなる空間の創出
- ・ ヒト優先の道路空間の創出
- ・ 施設の連携による賑わい空間の創出

02. 「まちごとアート」など、遊び心あふれる場

- ・ アートイベントやアートコンテンツによる魅力発信

03. 実証フィールドの提供、実装に向けたサポート等、チャレンジする企業のバックアップ環境

- ・ チャレンジする企業の支援

04. 先端技術のショーケース・ラボ

- ・ 先端技術による賑わい創出

05. 広域から集客し、市内に送り出す集客ポンプ

- ・ 先端技術等による回遊性向上
- ・ 地区の魅力を活かした滞在性向上

06. 拠点性の高いステーション

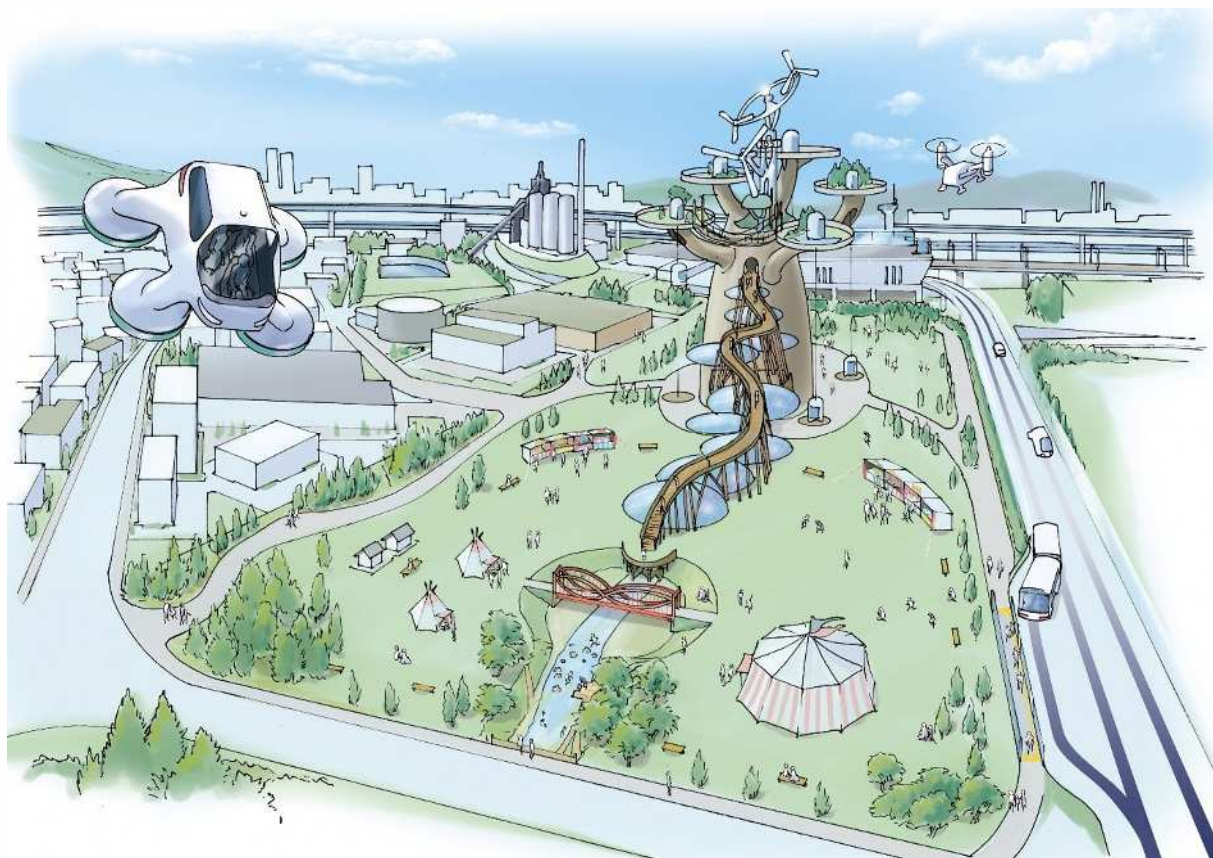
- ・ 駅前空間の魅力創造
- ・ 来街者の利便性向上



01. 広場・公園を核としたシンボリック空間

居心地がよく、歩きたくなる空間の創出

- ・東田大通り公園では、人を惹きつけるコンテンツを導入することにより、居心地がよく、歩きたくなる、シンボリックな空間を創出します。



回遊バリアを解消した、駅前一帯を包む大広場 イメージ

ヒト優先の道路空間の創出

- ・一般車両の通過交通の抑制により歩行者の安全、安心を確保するとともに、道路空間の再編により、東田大通り公園と周辺施設のアクセス性を高め、地区内の回遊性向上を図ります。

施設の連携による賑わい空間の創出

- ・いのちのたび博物館やスペース LABO（北九州市科学館）、東田第一高炉跡、民間施設などの施設間の連携、協働により、一元的な企画運営、イベントの共催、効果的な情報発信を行うなど、トータルマネジメントを構築し、地区全体で賑わい空間を創出します。



イベントの共催による賑わいの空間 イメージ



02. 「まちごとアート」など、遊び心あふれる場

アートイベントやアートコンテンツによる魅力発信

- ・市民・企業による地域特性を活かしたまちづくりのチャレンジ・実践を推進します。
- ・公園や道路では、芸術と触れ合う機会の提供やシンボル性を高めるコンテンツの導入などにより、個性あふれる空間を創出し、アートを通じた交流の促進や地域の魅力を発信します。
- ・公園の活用にあたっては、様々なイベントの開催や多様化するニーズに対応した運用など、多種多様な公園の利活用により賑わいを創出します。



アート展示による個性あふれる空間 (iStock.com/Olivier DJIANN)



音楽イベントによる賑わいの創出 (iStock.com/PeopleImages)



公園の賑わい イメージ



イベントの開催による公園の活用
(iStock.com/newsfocus1)



民間活力導入によるイベントの開催
(iStock.com/surachetsh)

03. 実証フィールドの提供、実装に向けたサポート等、 チャレンジする企業のバックアップ環境

チャレンジする企業の支援

- ・先端技術の実証フィールドの提供やインフラの充実、柔軟な受け入れ体制の構築などにより、先端技術の実証・実装に取り組む企業をバックアップします。
- ・企業間の情報交換を促進させ、ビジネスマッチングを行い、新たなビジネスに繋げていきます。



無人自動運転車両の実証実験 (iStock.com/ol1o)



情報インフラの充実 (PIXTA)



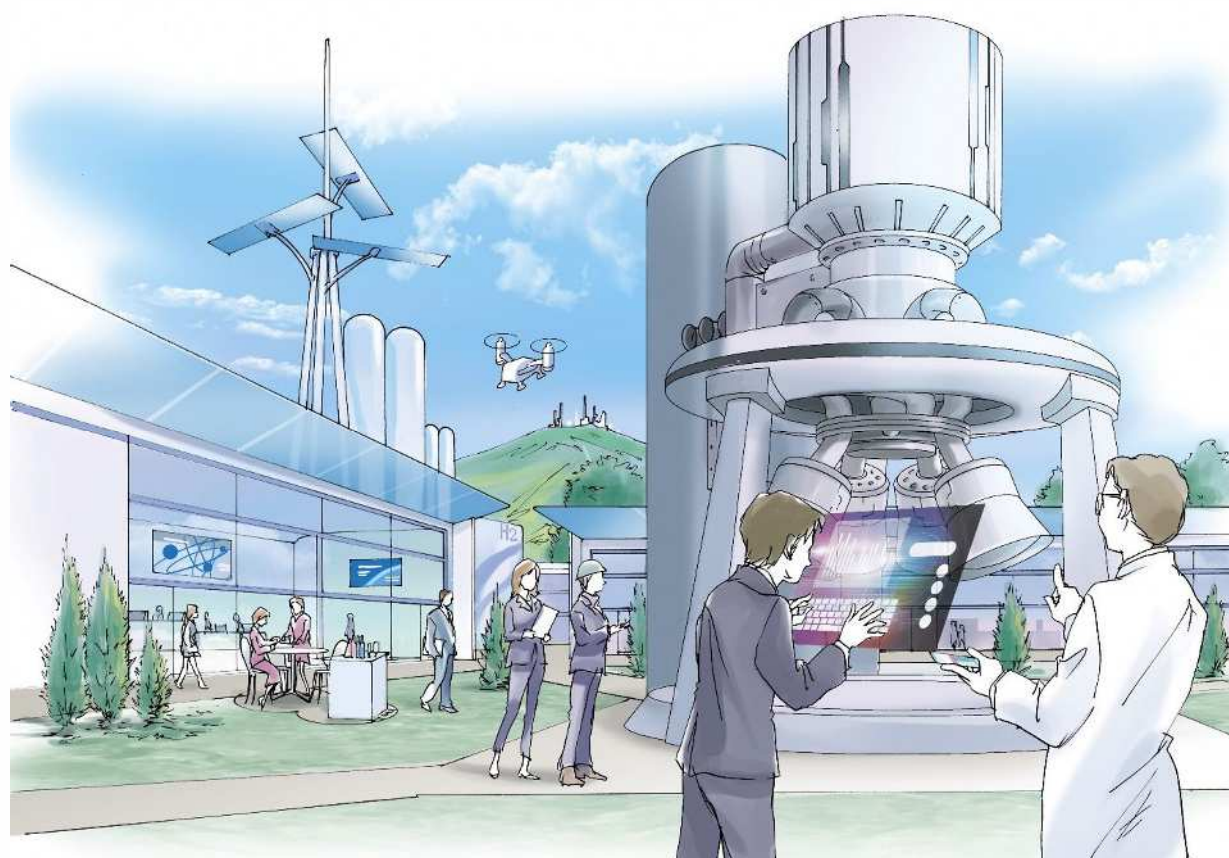
企業間の情報交換 (iStock.com/metamorworks)



企業の誘致 (iStock.com/gorodenkoff)



ビジネスマッチング イメージ (iStock.com/metamorworks)



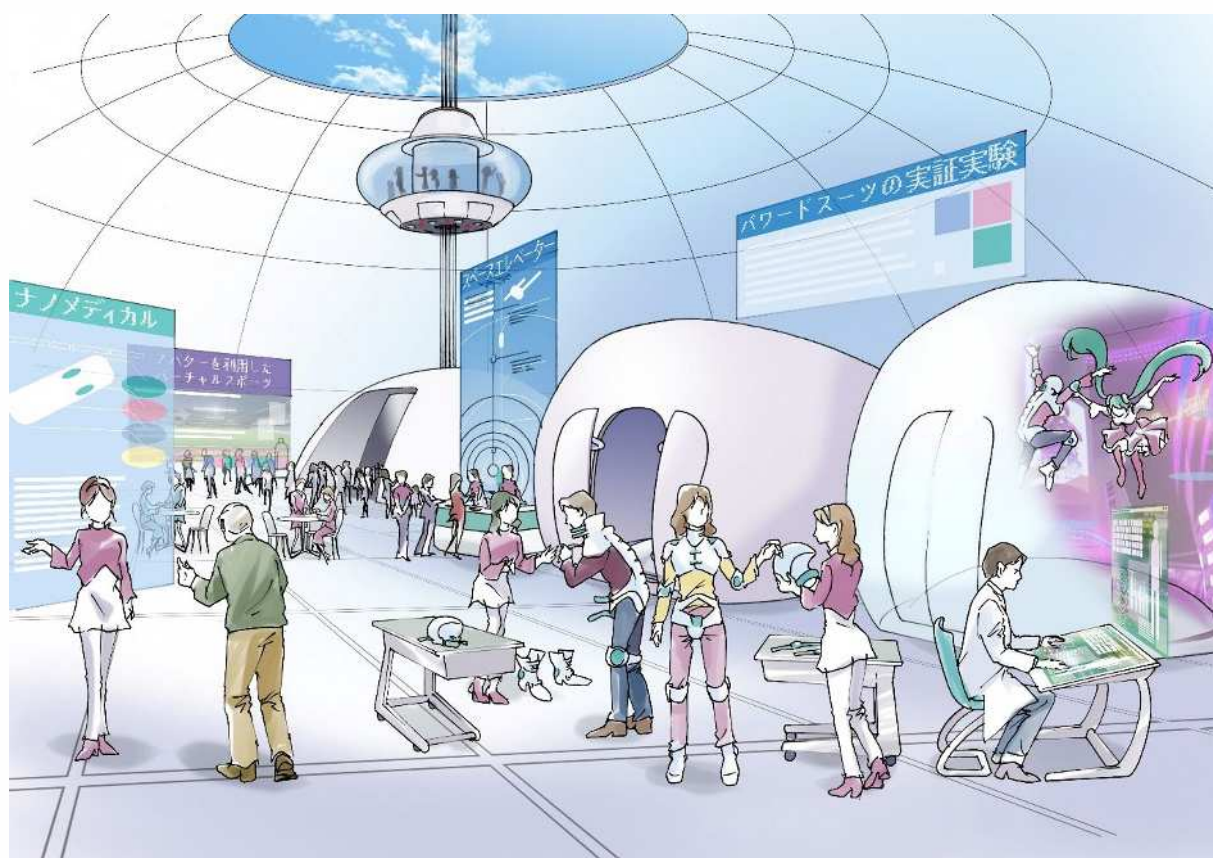
先端技術を実証・実装する企業へのバックアップ イメージ



04. 先端技術のショーケース・ラボ

先端技術による賑わい創出

- ・民間企業や博物館等が連携して、オープンラボなどの市民に向けた先端技術の公開や体験イベントの開催など、来街者が体験、交流できる場を作ることで、まちの賑わいの向上を図ります。
- ・VR（仮想現実）、AR（拡張技術）などの先端技術による新たな観光ツールを活用して、更なる観光需要を喚起します。



先端技術を観光ツールとして活用 イメージ



オープンラボの見学・体験 (PIXTA)



実証フィールドに隣接した研究室・ラボ
(iStock.com/gorodenkoff)



最先端な研究室・ラボ (PIXTA)



VRを用いた観光ツール (iStock.com/Rossella De Berti)



ARを用いた観光ツール (iStock.com/grinvalds)

05. 広域から集客し、市内に送り出す集客ポンプ

先端技術等による

回遊性向上

- ・ AI や IoT 等の先端技術を活用した MaaS、デマンド型自動運転バス、パーソナルモビリティなどの新たな交通手段の導入を促進し、地区内及び市内各所への回遊性向上を図ります。
- ・ 来街者に対して、AI や IoT 等の先端技術を活用して、観光情報を発信することで、来街者を市内各地へ送り出します。



先端技術を活用したツアーデスク イメージ



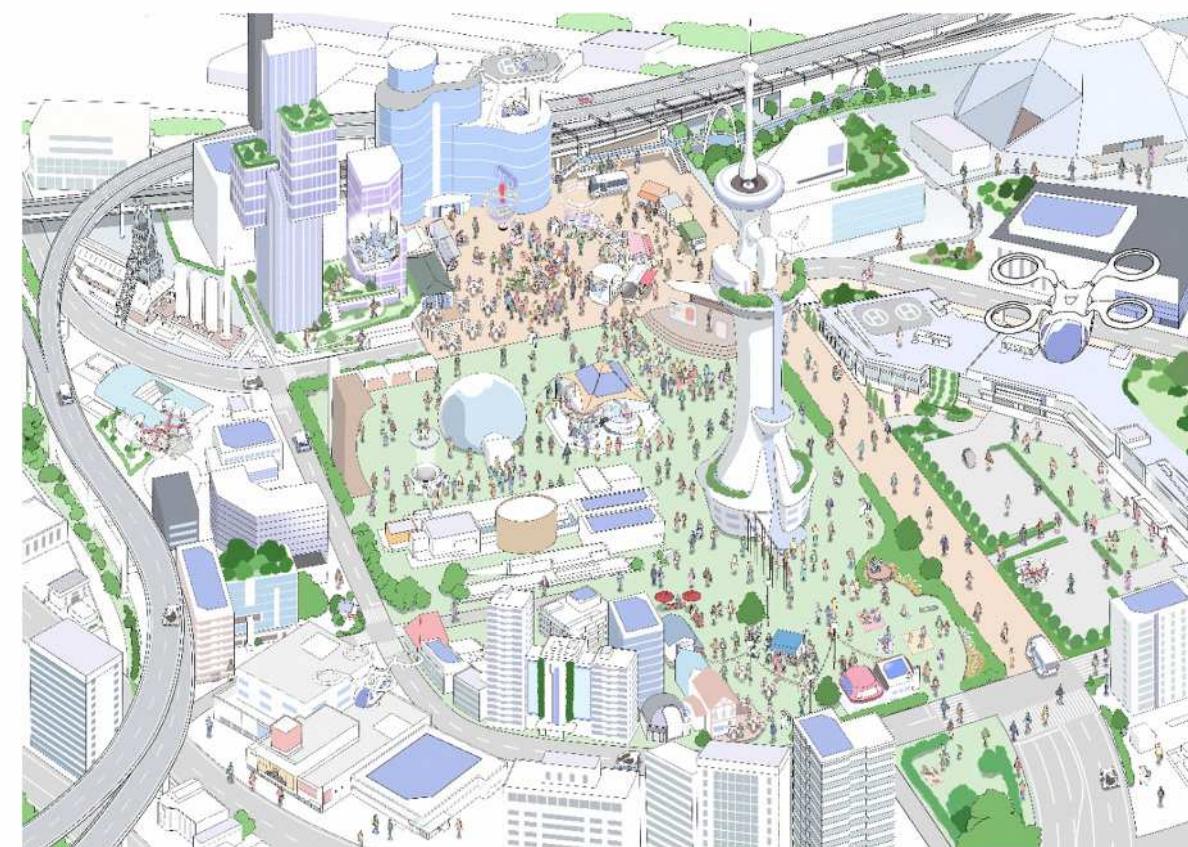
空飛ぶ車による観光 (iStock.com/MARHARYTA MARKO)



自動運転での回遊 イメージ (iStock.com/Scharfsinn86)

地区の魅力を活かした滞在性向上

- ・ 産業遺産、博物館群、商業施設との連携強化により、滞在性の向上を図ります。



施設の連携による賑わいの創出 イメージ



06. 拠点性の高いステーション

駅前空間の魅力創造

- ・駅前広場では、来街者が自然に集まる、賑わいや交流を生む空間としての利用促進や駅高架下での良好な景観形成により、地区の玄関口にふさわしい魅力ある空間を創出します。



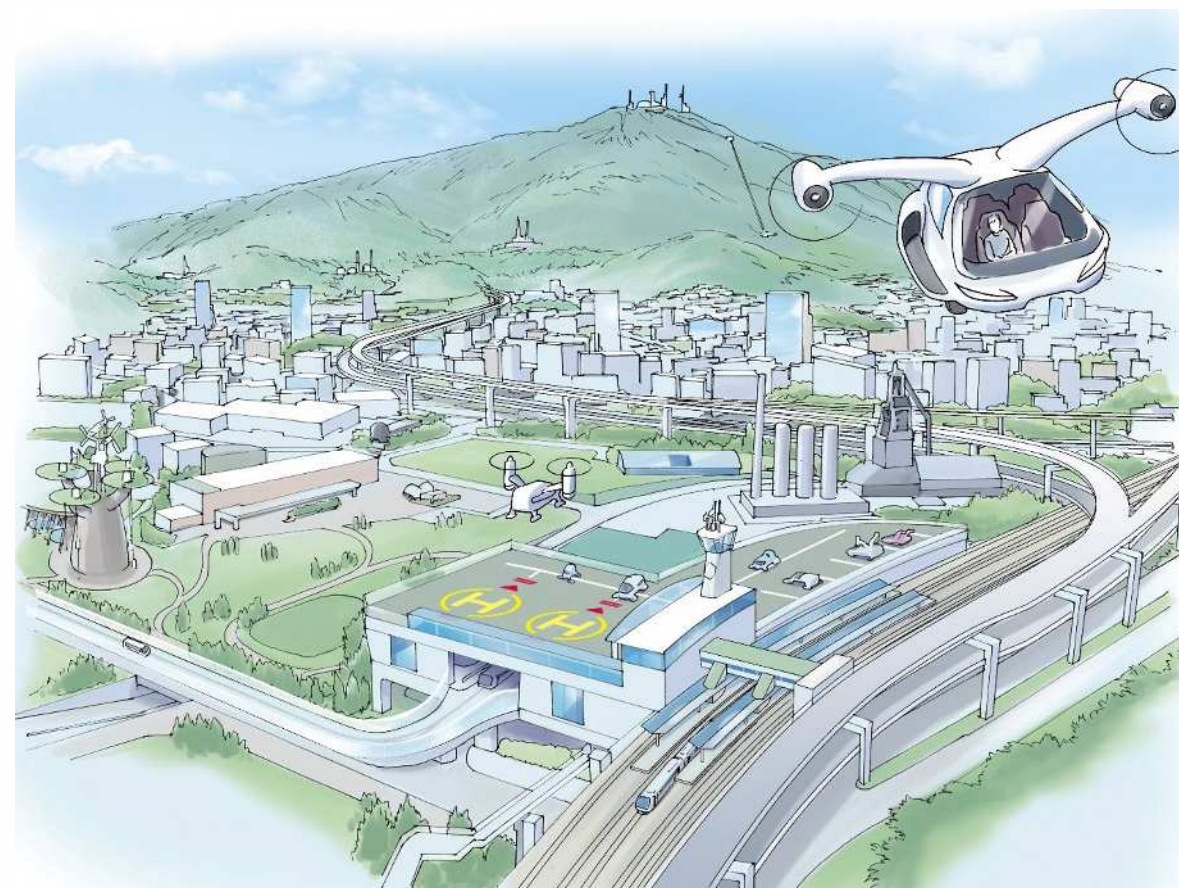
地区の玄関口にふさわしい魅力ある空間 イメージ



駅前広場の賑わい イメージ

来街者の利便性向上

- ・先端技術を活用した移動手段の導入や交通結節機能の強化など、来街者のニーズに対応した、交通アクセス性や利便性の向上を図ります。



駅を中心とした交通拠点 イメージ